



令和4年度 菊川市学校安全総合支援事業実践報告

～10年先を見据えた防災教育と持続可能な取組に向けて～

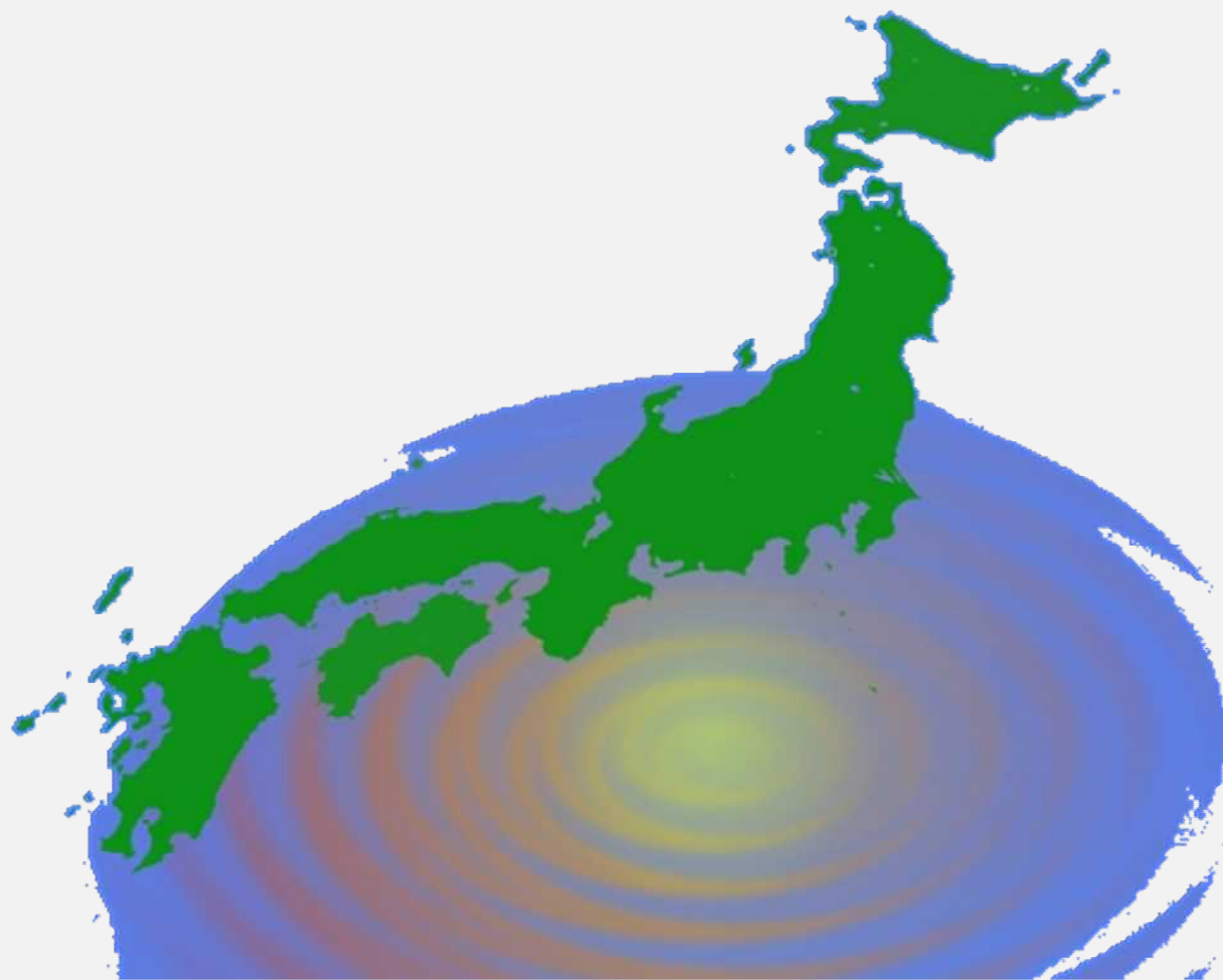
東日本大震災から何年経過した？



12年経過したということは…



そこで、本市が考えたこと。



事業の概要

- 実践委員会
- 学び続ける研修会
- 減災教育「結」プロジェクト
- 東日本大震災被災者講演
「いのちてんでんこ」



菊川市マスコットキャラクター

きくのん

第1回実践委員会

■ 日時

令和4年7月19日

■ 場所

菊川西中学校

■ 講師

常葉大学 木宮敬信

■ 事業概要

- 学校安全総合支援事業概要説明
- 木宮教授から防災の在り方について講演
- 防災マニュアルの情報共有



菊川市マスコットキャラクター

きくのん

第1回実践委員会

■ ポイント

- ◆ 各学校における防災の取組は一般的なもの。
ただし、防災マニュアルの見直しは必要。
- ◆ 各学校で防災マニュアルが作成されているので、
何が正しいのかがわからない。
- ◆ 防災マニュアルが各校バラバラなので、
情報共有して比較検討することが必要。
- ◆ 避難訓練をとおして防災マニュアルを確認し、
PDCAを図る仕組みが必要。



菊川市マスコットキャラクター

きくのん

減災教育 「結」プロジェクト

■ 日時

令和4年11月10日、11日

■ 場所

内田小学校、加茂小学校

■ 講師

東北大学講師 保田真理

■ 事業概要

- 減災教育の在り方について教職員と意見交換
- 有事に「自分が何をすべきか」を考えさせる
スタンプラリーゲームを児童に実施



減災教育 「結」プロジェクト

■ ポイント

- ◆ 日本で地震が起きやすい状況を映像教材を用いて説明、静岡県は大規模地震が起きやすい環境を説明
- ◆ 防災・減災スタンプラリー後、児童でグループワークを実施
- ◆ 講演後、「結」ハンカチが配布され、学んだことを家庭につなげるよう働きかけ



東日本大震災被災者講演 「いのちてんでんこ」

■ 日時

令和4年11月17日、18日

■ 場所

堀之内小学校、菊川西中学校

■ 講師

元釜石東中学校副校長 村上洋子

■ 事業概要

- 「奇跡の釜石」学校現場での体験談
- 当時の画像や絵本を使っでの講話



東日本大震災被災者講演 「いのちてんでんこ」

■ ポイント

◆ 涙を流しながら話に耳を傾ける姿が見受けられる

◆ 講演後の感想

「自分の命の大切さを実感した」

「避難訓練を見直そう」

「子どもたちの命を守っていくことに責任」



第2回実践委員会

■ 日時

令和5年1月25日

■ 場所

菊川西中学校

■ 講師

常葉大学 木宮敬信

■ 事業概要

- 実際の防災マニュアルを提出し改善点を協議
- 防災マニュアル統一化への意見交換



菊川市マスコットキャラクター

きくのん

第2回実践委員会

■ ポイント

- ◆ どの学校も問題式は同じ、既存マニュアルを基本にどうやってやるのか考えた防災訓練が必要
- ◆ 被災時鍵になるのは養護教諭だが、
1人のため他の教職員でもできるように
- ◆ 防災訓練の評価は難しいが、
ビデオを撮影するのが効果的
- ◆ 防災訓練はセンス、定型訓練も必要だが
自由度を持った訓練も必要



防災マニュアル改善の在り方

- ◆ 既存マニュアルは実効性に疑問、
有事に動けるかが課題
- ◆ 防災知識がないまま
マニュアルを改善するのは難しい
- ◆ 1つの学校でのマニュアル改善は限界がある
複数校で知恵を集めることが大事



防災マニュアル改善の在り方

- ◆ 子どもは1つの学区で動いているわけではない
マニュアル共有化は子どもにも有効
- ◆ マニュアルの熟読度も教職員に差がある
わかりやすく理解させることがポイント
- ◆ 防災訓練もうまくいく前提の訓練だけでなく
想定外に対応するための訓練も必要



防災マニュアル改善の在り方

- ◆ 学校安全に大切なのは
チャレンジ、アイデア、自由な発想
- ◆ 実践的な訓練も複数校で実施すれば多くのパターン
多種多様な訓練を実施
- ◆ マニュアルをわかりやすく
文章だけでなく何をやるかわかるだけでも



事業の成果と課題

- 教職員のみならず児童生徒と共有できたことは大きな効果
- モデルとして1中学校区で実施したが、自然体で取り組んでいく必要がある



次年度以降の取組

- 市全域への事業拡大
- 市内防災マニュアルの統一化



令和4年度 菊川市学校安全総合支援事業実践報告

ご清聴ありがとうございました！

